

カミングアウトのタイミングの問題

一昨日入院し、昨日Drから治療方針の説明を家内と共に受けた。

まず、精密検査の結果から、肺ガン（腺ガン）で右副腎、右腸腰筋にも転移し、ステージ4であることから、手術、X線治療が手遅れである旨の説明があった。

次にガンのタイプに適応すると思われる抗がん剤の選択理由、抗がん剤投与と経過観察、その評価に要する日数、評価からのその後の治療と緩和ケアの併用、来週から治療を始めたい、等々の説明であった。

抗ガン剤投与は、4コース（段階）があり、各コースの治療経過観察・評価から次のコースに進むかどうかを本人、家族等を含めて検討することになり、医療サイドとしては第2コースの終了時の検査評価から、ガンの進行を抑えられるかどうかを見極めたいよう。

自分の肺ガンタイプへの抗がん剤が転移部位への効果はどうかと質問したが、肺ガンに効く抗ガン剤なら他の転移部位へも同様に効くだろうとのことだった。

医療サイドとしては当然だが、抗がん剤の副作用についてかなり詳細に説明され、ここでも同意書署名を求められた。

抗ガン剤は徐々に投与してくと思っていたが、点滴で一気に投与し、投与後3日～7、10日が最も副作用が現れ、その副作用に耐えるだけの体力があるかどうか、その後の治療方針の判断材料になるとか。

まして、世間一般にもまだまだ抗がん剤の副作用が強いと思われるだけに、Drから最近では副作用を抑える治療も進んで来ていると言われても、やはり、当事者としてはかなりのフレッシャーを抱かざるをえない。

要は、第1コースの治療実施時の副作用に当事者が精神的にも肉体的にもどう対応し得るかに抗がん剤治療の鍵がありそうなのが分かってくると、本人は不安になり、あれこれ葛藤せざるを得ない。

副作用が強いので余命が短くなってもいいから治療を辞めようと思うのか、この副作用を耐えることで次の治療コースへ進みガンの進行を抑えられるかと思うのか、ここの葛藤は並大抵でないと、現時点では想像できる。

その治療を受けるも受けないも本人に選択権がある時代とはいえ、医療知識・情報が乏しい本人側からすれば、納得いくまでインホームド・コンセントを受けられるとはいえ、そうそう質問・理解できるものでないと思う。

また、ガンのステージ4は余命と関係する段階だけに、本来なら人との係わり合いを重視されるべきだが、個人差はあるのだが治療段階初期は副作用（嘔気、嘔吐、脱力感、食欲不振、等々）で本人自身が心理的に人と会いたい症状、状況でないだろうだけに、当事者になってつくづくカミングアウトのタイミングに難しい問題があることを思い知らされた。